



プレスリリース

## 「とことん魅せます！富士美の写真コレクション」展

東京富士美術館では、7月16日(日)より8月27日(日)まで、当館の約20,000点の写真コレクションより、選りすぐりの作品約200点を出品し、写真の黎明期から現代に続く写真史の系譜をご紹介します。

デジタル化が進んだ現代では、誰もが簡単に撮影できるようになりましたが、かつて写真を撮影しプリントして完成するためには、大きな労力が必要でした。200年近い写真の歴史を、試行錯誤によって生み出された作品とともにご覧いただくことによって、先人たちがそれぞれの写真に込めた想いとその魅力を再発見していただけたら幸いです。

### ◆開催概要

(関連イベントの詳細につきましては今後ホームページ [www.fujibi.or.jp](http://www.fujibi.or.jp)にてお知らせします)

展覧会名：黎明期から現代に続く写真史の系譜

「とことん魅せます！富士美の写真コレクション」

会場：東京富士美術館 本館展示室

会期：2023年7月16日(日)～8月27日(日)

休館日：毎週月曜日 ※7月17日(月祝)は開館、7月18日(火)は休館

開館時間：10:00～17:00(16:30 受付終了)

入場料金：大人 1,000(800)円、大高生 600(500)円、中小生 300(200)円、未就学児無料

※新館常設展示室もご覧になれます

※( )内は各種割引料金 [20名以上の団体、65歳以上の方、当館公式LINE登録者ほか]

※土曜日は中小生無料

※障がい児者、付添者1名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

主催：東京富士美術館(東京都八王子市谷野町 492-1)

問い合わせ先：TEL.042-691-4511



## ◆主な出品作品（予定）

《習作：農場の風景、バウアーフォンホフ》アルフォンス＝ルイ・ポワトヴァン/イポリット・バヤール、《ランス大聖堂北袖廊の中央扉、七聖人像》アルフォンス＝ルイ・ポワトヴァン、《シダの葉（アスプレニウム・ファビアナム）》イザック・A. レーン（帰属）、《月、ニューヨーク》ルイス・モリス・ラザファード、《エイブラハム・リンカーン》アレクサンダー・ヘスラー/ジョージ・B. エアーズ、《ヴィクトル・ユゴー》ナダール、《ウジェーヌ・ドラクロワ》ピエール・プティ、《チャールズ・ダーウィン》ジュリア・マーガレット・キャメロン、《聖ジョージとドラゴン 兄弟たちと一緒にエクシー・キッチン》ルイス・キャロル、《塔の回廊から眺めるノートルダム大聖堂の屋根》シャルル・マルヴィル、《照明に輝く万国博覧会場とエッフェル塔》ハリー・C. エリス、《ル・グレイの使用人、エジプト》ギュスターヴ・ル・グレイ、《官吏の住居中庭、北京》ジョン・トムソン、《フルベッキと塾生たち、長崎》上野彦馬、《日本庭園、原》フェリーチェ・ベアト、《丈の長い着物を着た日本女性》日下部金兵衛、《ジャンプする馬（「動物の運動」より）》エドワード・マイブリッジ、《朝》クラレンス・ハドソン・ホワイト、《ノナン・ディエール通り、パリ》ウジェーヌ・アジェ、《冬、五番街》アルフレッド・ステイーグリッツ、《月夜、池》エドワード・スタイケン、《パブロ・ピカソ》ブラッサイ、《モンドリアンのアトリエ》アンドレ・ケルテス、《聖アンナと聖母子と幼児聖ヨハネ》フレデリック・ソマー、《五人のオカパの勇士達、ニューギニア》アーヴィング・ペン、《マリリン・モンロー》リチャード・アヴェドン、《崩れ落ちる兵士》ロバート・キャパ、《焼き場に立つ少年》ジョー・オダネル、《エチオピア》セバスチャン・サルガド、《採掘塔》ベルント&ヒラ・ベッヒャー、《アポロ 11 号の月面着陸》アメリカ航空宇宙局 / NASA、《インペリアル、モントリオール》杉本博司、《プラスチック、千葉県九十九里海岸》東松照明



TOKYO FUJI ART MUSEUM

492-1 Yano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0016 Japan  
Telephone: 81(0) 42 691 4511 Fax: 81 (0) 42 691 4623



ナダールの写真スタジオで撮られたフランスの文豪ヴィクトル・ユゴー(1802-1883)、76歳の姿。ユゴーと親しく交流していたナダールは彼の肖像写真を数多く残している。

ヴィクトル・ユゴー 1878年 ナダール(1820-1910)



アジェは「芸術家のための資料」と銘打ち、都市開発によって失われつつある古き良き19世紀のパリの姿を克明に記録した。

ノナン・ディエール通り、パリ 1910年頃 ウジェーヌ・アジェ(1857-1927)



ダグレオタイプの発明者ダゲールが実験に使っていたカメラ・オブスキュラを基にして設計した世界最初のカメラ。

ビアンキ・ダグレオタイプ・カメラ 1839年



## [新館第8室]

## タルボット 特別展示コーナー

東京富士美術館の写真コレクションには、写真の発明者の一人として知られるウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットの貴重な42点が収蔵されています。これらの作品は写真史の黎明期を物語る人類の至宝です。タルボットの写真は、そのプリント技術が試行錯誤される中で生み出された作品であり、光や温度・湿度、空気環境に極めて敏感で脆弱なため、普段は一般公開されていません。

今回、この「タルボット 特別展示コーナー」(新館第8室)では、当館が所蔵する貴重なタルボットのオリジナル作品の中から、比較的保存状態の良い作品を選び、厳格な展示環境の管理のもと、1点ずつ1週間ごとに展示替えを行いながら初公開いたします。

展示期間	展示作品	
7/16(日)~7/23(日)	レイコック・アビー中庭の2人の紳士 Two Gentleman in the Courtyard of Lacock Abbey	
7/25(火)~7/30(日)	中国の陶磁器 Articles from China	
8/1(火)~8/6(日)	ラオコーン像 Statuette of Laocoon	
8/8(火)~8/13(日)	木を切る男たち Woodcutters	
8/15(火)~8/20(日)	レース Lace	
8/22(火)~8/27(日)	英国艦シュパーブ号の舵輪の側に立つ2人の船員、プリマス Two Sailors by the wheel of the H.M.S. Superb, Plymouth	



## 東京富士美術館の写真コレクションについて

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館である。コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されている。

「世界を語る美術館」をモットーにこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになった。

### 写真コレクション概要

当館収蔵品における最大の特徴は写真コレクションである。写真プリントの収蔵数は約 20,000 点、関連の貴重図書資料類が約 5,000 点、その他にカメラ装置や付属品など約 100 点が収蔵されている。コレクション全体としては、16 世紀より 1839 年の写真誕生前史に始まり、19 世紀の肖像・風景産業等の写真、20 世紀の報道写真や表現の可能性を追求した芸術表現としての写真、そして現代に至るまでの写真史・視覚史の全貌をほぼ網羅する世界的なコレクションを形成している。

### スティーブン・ホワイト氏の旧蔵コレクション

コレクションの中核を成す 19 世紀から 1960 年代までの幅広い作品群 15,000 点余は、ロサンゼルス収集家スティーブン・ホワイト氏が 20 年間をかけて収集した氏の旧蔵コレクションによるものである。そこには写真誕生初期の 19 世紀の作品約 6,400 点が含まれ、他の美術館には例を見ない大変重要な収蔵品となっている。とりわけ、1840 年代よりカロタイプによる肖像写真等を残したヒル & アダムソン (David Octavius Hill, 1802-1870/Robert Adamson, 1821-1848) をはじめ、19 世紀のアジアの風土を撮影したジョン・トムソン (John Thomson, 1837-1921) の 450 点、1855 年にフォト・リトグラフィー (写真石版法) を発明したアルフォンス・ルイ・ポワトヴァン (Alphonse-Louis Poitevin, 1819-1882) の 107 点は、





今後も調査研究を要する大変貴重な作品群である。

20世紀においては、エドワード・ウェストン(Edward Weston, 1886-1958)のヴィンテージ・プリント 75点をはじめ、作品数が極めて少ないと言われているピクトリアリズム(絵画主義)の作家レオナルド・ミゾンヌ(Leonard Misonne, 1870-1943)のまとまったコレクション 620点、俳優、政治家、芸術家など多くの著名人ポートレートを撮影した女性写真家ロッテ・ジャコビ(Lotte Jacobi, 1896-1990)の 1456点、W.ユージン・スミス(W. Eugene Smith, 1918-1978)の 55点などが含まれる。

### 特色ある稀少なコレクション

これらスティーブン・ホワイト旧蔵コレクションを核に、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット(William Henry Fox Talbot, 1800-1877)、アンドレ・ケルテス(Andre Kertész, 1894-1985)、ロバート・キャパ(Robert Capa, 1913-1954)などの貴重なコレクションを収蔵している。

中でも特筆すべきコレクションとして、写真発明者タルボットによる 42点 が挙げられる。これは写真誕生の軌跡を示す重要かつ稀少なコレクションであり、そのうち 25点 はタルボットの孫娘の信頼のもとで管理していた Harold White 氏の旧蔵コレクションである。氏のコレクションから 1988年に当館とポール・ゲッティ美術館がそれぞれに作品を選択して収蔵に至っている。

アンドレ・ケルテスのコレクションは、最初期のヴィンテージコレクション 200点余が収蔵されている。ケルテスがハンガリーの青年時代であった 1910-20年代に撮影した作品を多数含み、作品のほとんどに自らのサインが入っている貴重な内容である。

そして、ロバート・キャパのコレクションについては、約 7万点のネガより厳選し 3セット限定でプリントされた重要な代表作 937点を核に、撮影当時に現像された 75点のヴィンテージ・プリント、インドシナ戦線で記した絶筆を含む 5葉の自筆書簡、グラフ誌『ライフ』など当時の掲載誌、さらに地雷で殉職した際に所持していた血痕の付着した愛用のカメラ(Nicon製)など 1,000点以上に及ぶ充実したコレクションを形成している。

その他、フレデリック・ソマー(Frederick Sommer, 1905-1999)、



ベッヒャー夫妻(Bernd Becher 1931-2007/Hilla Becher 1934-2015)、東松照明(1930-2012)、杉本博司(1948-)、柴田敏雄(1949-)、佐藤時啓(1957-)、など 20 世紀の国内外における代表的な写真家の優品を 10 作品単位で収蔵している。

### カメラ装置と貴重図書資料

写真誕生と視覚史を語る重要な装置として、17-18 世紀の希少なカメラ・オブスクーラ、19 世紀のダゲレオタイプ・カメラ、粗描器カメラ・ルシーダなどカメラ装置類を各種収蔵するとともに、螺細ステレオ・ビューアーや江戸中期に流行した鞆絵皿など視覚システムに関わる資料や装置を収蔵している。

貴重図書資料については「近代における視覚空間の変遷と知覚の変容」をテーマに収集をし、『デューラー全集』(アルブレヒト・デューラー、1525/1528 年)、『自然の魔術』(G.B.デッラ・ポルタ、1558 年)、『哲学原理』(ルネ・デカルト、1637 年)等をはじめ、16-18 世紀における遠近法、視覚史に関する科学図書や研究書、初期の写真アルバム類など約 5,000 冊が収められている。



とことん魅せます！富士美の写真コレクション The Birth and Flowering of an Artistic Medium: A Panoply of Prized Photographs from the TFAM Collection

写真No.	画像	作品名	制作年	作家名	材質・技法
1		ヴィクトル・ユゴー	1878年	ナダール(1820-1910)	カーボン印画
2		聖ジョージとドラゴン	1875年6月26日	ルイス・キャロル(1832-1898)	鶏卵紙
3		ノナン・ディエール通り、パリ	1910年頃	ウジェーヌ・アジェ(1857-1927)	鶏卵紙
4		月、ニューヨーク	1865年3月6日	ルイス・モリス・ラザファード(1816-1892)	鶏卵紙
5		ピアンキ・ダグレオタイプ・カメラ	1839年		木製
6		エイブラハム・リンカーン	1860年	アレクサンダー・ヘスラー(1823-1895)／ジョージ・B. エアーズ(1867-?)	プラチナ・プリント
7		塔の回廊から眺めるノートルダム大聖堂の屋根	1859年	シャルル・マルヴィル(1813-1879)	鶏卵紙
8		照明に輝く万国博覧会場とエッフェル塔	1900年	ハリー・C. エリス(1857-1928)	プロマイド・プリント
9		関江河口の中洲の寺院	1870-71年頃	ジョン・トムソン(1837-1921)	カーボン・プリント
10		丈の長い着物を着た日本女性	1880年頃	日下部金兵衛(1841-1934)	鶏卵紙、手彩色
11		朝	1905年	クラレンス・ハドソン・ホワイト(1871-1925)	プラチナ・プリント

ご希望の【画像番号】をご記載ください。

貴社名	ご担当社名	
媒体名	(掲載コーナー、特集名： )	
ご住所	〒	
ご連絡先	TEL :	FAX:
	E-mail:	

1. 作品画像データの使用について

本展覧会をご紹介いただける場合に限り、上記の画像データをお貸し出しいたします。

ご希望の場合は下記の窓口にメールかFAXにてお知らせください。

2. 掲載につきましての注意事項

- 図版掲載の折りには、作品名などのキャプション情報と共に、クレジット表記として「所蔵先」を必ずご明記ください。
- 作品は必ず全図ご使用ください。改変・部分使用・文字のせ等はお断りしております。
- 確認のため、ゲラの段階で広報事務局のほうまで原稿をメールかFAXにてご送信くださいますようお願いいたします。
- 作品の使用は、本展覧会の紹介用に限らせていただきます。本展覧会終了後の使用できませんので、ご了承ください。
- ご掲載いただいた場合、掲載紙/誌を2部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

※ ご申請により、招待券(10組20枚)をプレゼントいたします。

3. 問い合わせ窓口

東京富士美術館 企画広報課 TEL : 042-691-4825 / FAX : 042-691-4623 E-mail : toiawase@fujibi.or.jp